平成 27 年度　第 5 回地域福祉活動計画策定・推進評価委員会　会議録

日　時：平成 28 年 2 月 19 日（金）18：30～20：40
会　場：練馬区役所本庁舎地下 2 階　多目的会議室

１．事務局長挨拶

本日は第４次地域福祉活動計画の実質的なまとめとなる。委員の皆さまには、長きにわたり検討を進めていただき感謝申し上げる。引き続き計画の推進に向けご指導いただきたい。

２．配布資料確認

○第４次地域福祉活動計画　本編・概要版・資料編
資料１－１　：ネリーズ（地域福祉協働推進員）推進の取り組みについて（案）
資料１－２　：ネリーズ（地域福祉協働推進員）説明会・懇談会について、ネリーズ通信
資料２　　：第４次地域福祉活動計画の推進評価について

３．第４次地域福祉活動計画について

第４次地域福祉活動計画本編・概要版・資料編を用いて説明。

職員：職員の自覚が深まり、オール社協で進めるということが浸透してきている。練馬区社協は特定のスーパースター職員でなく職員全員で計画を進めていきたい。計画については委員長、副委員長にご了解をいただき、先日理事会・評議委員会で計画が承認された。３次計画は厚い計画書であったが、４次計画は住民の皆さんにとって分かりやすく読みやすいものが良いということで工夫されてきたと思う。視覚障害の方にも聴いていただけるようＳＰコードを入れた。練馬区社協の事業計画ともリンクさせて進めていく。２８ページにはネリーズはどのようなものかを分かり易くイラストを入れて表している。５２ページから策定の経過が書かれているが、平成２６年度の第３回の内容の１に「(仮称)住民リサーチャー」とあるが、これが出来上がった計画のネリーズに繋がっている。

職員：概要版は２ページにネリーがＱ＆Ａの形式で計画の説明をしている。４、５ページは本編の２８、２９ページの「ネリーズのいるまち」のイラストをそのまま概要版でも使用している。６ページは計画体系図、７ページには地域福祉計画と連携して進めていくことを書いている。

職員：資料編についてはマニアックに読みたい人向けにということと、推進にあたって必要な時に職員が振り返ったり、５次計画を策定するときのために主に重点的な取り組みに関する資料をまとめた。資料編は外向けの配布はしない予定である。

【質疑応答・意見交換】

委員長：マニアックに読みたい人がいるのに外部に配布しないのか。ＨＰからＰＤＦでダウンロード出来たら良い。

職員：担当職員が丁寧に資料をまとめたが外に出すにはこのままでは出せないので、さらに手を加えなくてはいけない。

委員長：本計画や概要版で目指していることがなぜいえるようになったかがバックデータとしてあると良い。急がなくてもよいが。

委員：概要版はよくできている。町会は若い人の加入率が低いがここに書いてあるようなことを町会も一生

懸命やろうとしている。まちの絵のように目指すものは同じ、これを若い人に見てほしい。

委員長：福祉というと以前は困窮している人というイメージがあったが、まったく困っていることがない人はいない。みんなでお互いの困りごとを軽減できるとよい。やれるところは町会と一緒にやっていければ良いし、どこをどう担うかの戦術的なことは検討していける。

委員：住民税を払っていれば行政サービスを受けられるので町会に入る必要はないという考えがある。災害時などは隣近所の助け合いが大事になる。町会に入っていない人だから助けなくて良いかということにもなる。

委員長：契約のもとで相互扶助の仕組みがあっても良いが、性善説の考えはあって助け合うということがあると思う。町会の一員をはじめ、地域のメンバーとして暮らすにはメリットだけでなく義務というのもある。生活の潤いやその人らしい暮らしは税金を払ったから得られ提供されるものではない。プラスアルファは地域で作っていかなければならない。

委員：町会に入ってはいるが、直接町会長と会ったり話したりする機会はなかなかない。若い人にしても加入イコール受益と思わなくてもどんなことをすればいいのかわからないということもある。ネリーズのように具体的な仕組みが示されると一歩進んだ話ができるようになる。それを起爆剤にできると良い。

計画を作っている過程の中で横断的に社協のすべての部署が関わって取り組んでいることはよくわかる。そのことがひとつの成果であると考える。地域福祉計画との関係については今後どうなっていくのか。

区職員：社協との連携を取らなければいけない事業がいくつかある。地域福祉コーディネーターの取り組みと１７出張所エリアにおける緩やかな見守りの取り組みは中でも主要な取組みとなる。３月半ば位には区の計画も出来上がる予定。

委員長：推進ということでは、ネリーズが目玉となると思うが、次の議事で話し合っていきたい。

４．ネリーズ（地域福祉協働推進員）推進の取り組みについて

１－１、１－２、ネリーズ通信３つの資料を使って説明

職員：地域ごとの懇談会について、担当部署と担当策定委員の案を作成した。各委員に関係の深い地域を優先させて担当していただきたいと考えているが、このことについてもご意見をいただきたい。また、ネリーズ広報誌のネーミングは分かり易いものということでストレートに「ネリーズ通信」とした。内容はネリーズとして活動をしている方にインタビュー形式でやり取りしたものとなっている。今後、“がっつりネリーズ”から“ちょこっとネリーズ”までいろいろな方を紹介していきたい。毎年１０月にネリーズ登録強化月間を設け、同時期に全区懇談会も合わせて開催したい。秋から年末にかけてはイベントが多い時期でもあり、街頭募金に一緒に取り組むなどつながりやすい時期と考えた。委員からもアイデアをいただけるとありがたい。

【質疑応答・意見交換】

委員：郵送はいろいろ大変なのではないか。ネリーズ通信はウェブで配信を考えているか。

職員：今回は創刊号ということで郵送としたいが、多くの方に見てほしいということとコストの面などもあるので今後検討したいと考えている。

委員長：ネリーズになって何をするのか。例えば練馬駅で困っているひとがいることをＳＮＳで配信をした

ら誰かが動くなどができると取り組みが動いているのが分かる。その情報の信頼性を担保する方法は必要だが、そこまでいくとネリーズが動いているなという感覚になる。紙媒体はこれで良いが、若い人にも働きかけるという意味ではプッシュ型のＳＮＳを使うなど有効である。プル型のホームページだと見ない人もいる。いろいろ組み合わせてやっていけると良い。どう維持、運営していくかも課題となるのでノウハウが必要となるだろう。

委員：懇談会は色々な企画を通して実施するのが良い。町会で行っているが、２か月に１回酒を飲むということからでも良い。心が本当に通じないとできないのではないかと思う。懇談会などの企画で会って本音が言えるようになると良い。

委員：4 次計画が作成されたこともネリーズ通信に記載してほしい。

委員：懇談会のイベント（案）が古いと思う。人が集まるだろうか。別の団体と企画を一緒に考えてはどうか。

５．第 4 次地域福祉活動計画の推進評価について

資料２を使って説明

職員：計画書の３２ページに推進評価について記載してある。３次計画の評価を振り返りその有効性を示した。４次計画についても引き続き評価に取り組んでいく。ネリーズの声や懇談会であがった意見なども評価に加えていきたい。ネリーズの懇談会に委員の皆様にもぜひ参加していただき、推進についていただいた意見を評価に反映させていきたい。

【質疑応答・意見交換】

職員：３次計画では委員に地域福祉コーディネーターを配置したモデル地区の取り組みに関してスーパービジョンをしていただいたが、４次計画では市民の立場で各委員の皆さんにスーパーバイザーをお願いできないか。ただ、ご一緒するだけでなく策定委員としてというより新たな目で見ていただき、ご意見をいただきたい。

委員：いろいろな立場で複眼で見るのは良いと思う。

委員長：スーパービジョンが何かということになるとで少し違うと思うが、委員の皆さんにスーパーバイザーとなっていただくというより、委員の目線とは別に市民として、生活者としての目線で参加するということではないか。多角的な目で見ることは必要なので委員の皆さんもおそらく協力していただけると思うし、そのような意味では良いと思う。

委員：定期的に地域福祉コーディネーターの活動報告を受けてきたが、定期的に取り組みを資料にまとめ、職員間で共有して振り返る場面があったことは良かったと思う。その機会を利用して職員自ら答えを導き出したりしてきている。その場に入って話を聞きながら良いことは良いと伝えていった。そのように職員の話を受けたり答えたりをする機会があるのが良いのではないかと思う。

委員長：先達が後から続く人にアドバイスをする。あまり難しく考えずその都度、皆さんの経験や知見でアドバイスをいただきたいということで良いのではないか。

６．各委員から（策定について一言）

委員：町会の長老はスーパービジョンの要素を持っている。そういう意味では町会でも働きかけを待っている、連携して進めていけると良い。

委員：通信創刊号を作るだけでも大変だったと思うが、２号以降では、ネリーズと一緒に作っていくという具体的な方法を考えて欲しいと思う。例えば通信と一緒にアンケートが入っていて、一方通行でなく、

今こんなことをやっているなどの情報をネリーズから発信する方法などもある。もう一つはネリーズにこれを作った、これはどういう意味でということを伝えて発信してほしい。活動計画の「気づき育ちあい」のところが伝えられると良い。苦労した過程そのものが成果であると考える。

委員：４次計画は見てみようという気になる冊子になった。アイデアがいっぱいある。如何にネリーズに入ってもらうかが難しいが私たちも一緒に働きかけネリーズを増やしていきたい。団体としてもネリーズとして登録したいと思っている。

委員：概要版は特に見やすく、Ｑ＆Ａの形式もとても良い。ネリーズ通信で具体的に一人ひとりを紹介してもらえると自分が今取り組んでいるこんなこともネリーズであると気づいたり、こんな良い活動をしている人がいるという紹介をしてもらうのも良い。また、スーパービジョンということでは社協職員のモチベーションを支えるのも地域住民であると思う。そういうこともっと普及すると良いと思う。

委員：社協職員一丸となって取り組んだことと思う。字も大きく見やすい一冊となった。これを推進していくのは大変なこと。社協職員だけでなくもっと違う自由な発想や視点を入れる方がよい。ネリーズ通信もネリーズの中から得意な人が編集委員となって作っていくなどできるといい。

委員：同じ意見である。自治会も組織されていないところで問題が出てきている。老人クラブでは６０歳未満の人も賛助会員という立場で関わってもらっている。困ったときは的確に素早く対応することが必要。それで信頼を高めて口コミで広がっていく。

委員：読みやすくわかりやすい。ポイントは地域福祉コーディネーターがネリーズとともに取り組むということかと思う。コーディネーターの質もさることながら数がどのくらいになるのかわからないのでわかれば教えて欲しい。懇談会で策定委員として具体的に何を期待されているのかわからない。

委員：良い計画ができた。地域にはいろいろな人がいる。これまで社協が繋がりにくかった人やつながれなかった人がいると思うが、あせらずまずは近くにいる人から、そして、なるべくいろいろな人ともつながれると良い。方法としては、インターネットやＳＮＳが使える人、そうでない人様々であり、いろいろな方法もあったほうが良い。人によって安心・安全の中身は少しずつ違い、地域福祉が本当に豊かになるにはそういうことに気づきあえることが大事である。その第一歩の計画になった。

副委員長：読みやすく読みたいと思う計画になった。特に概要版はいろいろな人に見せられるし見せたい。今まで福祉に関心がなかった人に見せて、ぜひネリーズになってほしい。私たちが持っていない視点を持っている人たちにどんどん入ってもらいたい。地域はもっと小さく分けてもよい、郵便を使わなくても配達してくれる人が出てきたり、大きい地域と小さい地域があると良い。使える計画ができて良かった。

職員：先ほどの地域福祉コーディネーターが何人必要なのかは答えるのに難しい質問だが、４次計画は３次計画のように住民リーダーだけでなく、ちょこっと活動しているというネリーズとともに取り組んでいくということで地域福祉コーディネーターの動きも変わってくるかと思う。ご一緒に考えていただき進めていきたい。懇談会に出席いただいて期待することだが、委員の皆さんはどの方も地域で取り組まれてきたことをきちんと言える方たちで、ずっとこだわって揺らがない視点をもって取り組んでこられたことに期待をしたい。

委員：町会はみんなネリーズだと思う。町会に入っていなくても隣のおばあちゃんのことを気に掛けることもネリーズ、そう考えると数に際限はなくなる。数にこだわる必要はない。

７．まとめ

委員長：地域福祉活動計画の策定であちこちみていると３期目くらいからどこも地域福祉は何かを考え始め

ている。何だかよくわからないからとやめてしまったところもある。地道にやっていくなかで地域に理解が広まって意見が広がっていくということがある。一枚岩で最大公約数的に進めていったことが、３度目から４度目くらいに実体化していくということもある。気が早い話になるが第５次計画について、地域福祉コーディネーターの数は地区割りとも関わってくる。地域包括支援センターの地区割りと生活支援コーディネーター、出張所の１７か所の地区割りとコーディネーターをどうするかは計画を作るうえで話していかなければならない。そういう意味では区の計画と一体化し、相互に風通しを良くしていく必要がある。地区社協をどうしていくかも課題。それぞれの地域に違いがある。そこの地区で自分たちが何をしていくか、例えばネリーズの人たちが考えていくなど５次計画、６次計画に繋がっていくと思う。着実に進んでいるのは確かである。４次計画を着実に進め、その先を見据えながら評価していく必要がある。

区職員：区の計画がまだできていないこともあって社協の計画に深く関与できなかったところもあるが、出来上がってみるとまとまっているのかなと思う。社協全体で作っていることもよく分かってよかった。地域福祉コーディネーターの配置についてはなかなか増やしていくことが難しい。圏域の話もどの数字をもってくるかということは書ききれていない。３万人から３．５万人のエリアに配置していきたいが明確な数字はできていない。

区職員：昨年７月から社協と連携しながら大泉西と谷原地域で日常的なつながりを深めるというまさに区の視点と一緒であって、つながりの中で地域の気づき合いというところでともに活動をしていることをとてもうれしく思っている。

８．その他

職員：平成１６年から１０年間委員長を引き受けていただいた委員長だが、今回４次計画策定にあたって計画が出来上がるまでというお約束で委員長を引き受けていただいた。このたび計画が出来上がり私たちは委員長から卒業する時なのだと思う。最初に委員長をお引き受けいただく時に策定だけすればよいということではない、どう推進し評価するかということまでが大事、そこまできちんと取り組んでほしいと話があった。長きにわたってフォローしていただいてここまできたが、これからは市民が主体となって地域福祉を推進するというところにきたのではないかと考える。

委員長：関わって計画策定したところでも実行しないから継続しなかったところもある。練馬は最初どうなるかと思ったが、愚直にやってきて今に続いてきている。自分の役割はそれなりに終わったのかと思う。勝手を言って申し訳ないが宜しくお願いしたい。長い間ありがとうございました。

職員：これからも何かあったときはご相談させていただきたいと考えている。今後についてだが、ボランティア・地域福祉推進センターの運営委員長もやって下さっている委員に委員長をお願いしたい。副委員長にも引き続きお願いしたい。

委員：練馬区社協と一番お付き合いが長いということかと思う。新しい方を委員に入れて新しい視点を取り入れて欲しい、今回はそれを条件に引き受けることとする。

９．次回の日程について

６月２４日(金)予定

以　上